

平成22年度 前期（第8期）研究教員

研究報告集録

第 8 号

はじめに

<中学校 国語>

○研究テーマ

「話すこと・聞くこと」の力を育てる指導の工夫
－ 目的や場面に応じた言語活動を通して －

宮古島市立狩俣中学校
仲栴 京子

平成22年9月

宮古島市立教育研究所

はじめに

宮古島市立教育研究所は、創立 5 周年を迎え、スタート時の試行錯誤の段階から新たな段階へと進みつつあります。本研究所設立にご尽力くださった方々の志を受け継いで、運営委員の皆様のご指導や学校現場の先生方のご理解と協力を得ながら一つの節目を迎えることができました。衷心より感謝申し上げます。

さて、4 月より研究を重ねてきた、仲梶京子教諭の研究もいよいよ佳境を迎えることが出来ました。本研究所の方針として、「教師の授業力の向上を目指した研究」「実態の正確な把握と児童生徒に密着した研究」「学校現場で即、生かされる資料作り」を掲げ、取り組んで来ました。

『「話すこと・聞くこと」の力を育てる指導の工夫～目的や場面に応じた言語活動を通して～』のテーマで進めてきた本研究は、国語科のみならず教師が現場でぶつかる大きな課題であると考えます。自己表現力の向上は、その礎として「基礎・基本の確かな定着」が重要です。本研究は「話すこと・聞くこと」の基礎・基本として、意図的にスキルを取り入れながら言語活動の時間を工夫し、生徒の意欲を引き出す実践研究を目指したことがひとつの特長として挙げられます。

新指導要領の改訂の要点のひとつに「言語活動の充実」が掲げられています。各教科、領域を通して、言語活動を工夫することが重要視されています。国語科にあっては、言語活動を行うに当たっての学習活動を支える条件として、「伝え合う力」を高め、「思考力や想像力、言語感覚」を養うための実践的な授業力が求められていると考えます。本研究は学校現場のニーズのみならず社会のニーズに沿った研究と言えましょう。

よく話すためには、素直な自己開示が必要です。よく聞くためには、相手を思いやる心が必要です。本研究を支える大きな条件として、生徒の豊かな心を育む学校経営、学級経営、豊かな体験活動等、日頃からの教育活動が求められます。豊かな教育活動が展開される中で、本研究の効果もより発揮できるものと思います。また、国語教育の充実は、「各教科の学習の基本ともなる国語の能力を育成する」とともに、「生涯にわたって有効な国語の能力を育成し」生きる力の支えになるものと確信しています。

真摯に学び、着実に理論研究、検証授業を重ねてきた本研究が、各学校の国語教育並びに言語活動の充実に寄与できれば幸いに思います。

終わりにになりましたが、研究活動に、ご指導・ご支援いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成 22 年 9 月
宮古島市立教育研究所
所長 與儀 千寿子

平成22年度 前期

研究報告書

<中学校国語>

「話すこと・聞くこと」の力を育てる指導の工夫
～目的や場面に応じた言語活動を通して～



宮古島市立教育研究所 第8期研究教員

宮古島市立狩俣中学校 仲榎 京子

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	目指す生徒像	1
III	研究目標	2
IV	研究仮説	2
V	検証計画	2
VI	研究構想図	3
VII	研究計画	4
VIII	理論研究	5
1	伝え合う力について	5
(1)	伝え合う力とは	5
(2)	「話すこと」「聞くこと」について	5
2	「話すこと・聞くこと」の目標と指導事項	6
3	「話すこと・聞くこと」の言語活動	7
(1)	言語活動のねらい	7
(2)	「話すこと・聞くこと」の言語活動	7
(3)	話し言葉（音声言語）の特徴と書き言葉（文字言語）の特徴について	8
(4)	話すスキル」「聞くスキル」「話し合うことのスキル」について	9
4	「話すために書く」「聞き取るために書く」について	10
(1)	「話すために書く」	10
(2)	「聞き取るために書く」	11
5	「話すこと・聞くこと」の評価の在り方	11
(1)	評価の基本的な考え方	11
(2)	「話すこと・聞くこと」の評価基準	11
(3)	第2学年「話すこと・聞くこと」の評価基準	12
IX	実践研究	13
1	検証授業	13
2	授業仮説の検証	18
(1)	授業仮説1の検証	18
(2)	授業仮説2の検証	19
X	研究のまとめ	20
1	研究仮説1の検証	20
2	研究仮説2の検証	23
3	研究の成果と課題	26
4	おわりに	27
	<主な参考文献・引用文献>	27
	<資料>	28

「話すこと・聞くこと」の力を育てる指導の工夫

～目的や場面に応じた言語活動を通して～

宮古島市立狩俣中学校 教諭 仲栴京子

I テーマ設定の理由

平成20年3月、生きる力をはぐくむという理念のもと学習指導要領が改訂された。主な改善事項の一つに言語活動の充実があり、学校教育全体で言語力を育成することが強調されている。

また、国語科改訂の趣旨にも「言語の教育としての立場を一層重視すること」「実生活で生きてはたらき、各教科の基本ともなる国語の能力を身に付けること」等が挙げられ、特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力が重視されている。

しかし、めまぐるしく変化している現代社会において核家族化や少子化、体験活動の不足等から対話や豊かなコミュニケーションができない現状がある。これは家庭や地域社会における人間関係が希薄化しているためだと考えられる。また、情報・技術の発展に伴い現代社会のバーチャル面が人間関係をゆがめている一因でもある。このような社会状況の中で、子どもたちは、自分が話したいときは、聞き手がどんな状況にあるのか考えて話すことなく一方的だったり、聞き手も相手がどんなことを伝えようとしているのか考えようとせず無反応だったり、双方向のコミュニケーションがとれていない現状がある。このような子どもたちの言語生活を豊かにするためには、学校教育において自分の考えをきちんと話したり聞いたりする力をはぐくむことが重要だと考える。

本校においても、生徒の言語力、特に話す力や聞く力の充実が望まれる。生徒の実態をみると、人前で話すことが「恥ずかしい」「自信がない」ということや「授業の中で自分の考えや意見をしっかりと発表することができない」「友達に正しい質問の仕方や説明ができない」「互いに相手の思いを受けとめて話す・聞く」ということに課題がある。相手に対して自分の話したいことをどのように伝えたらよいのかという技術（スキル）や思考する習慣が身につけていないこと等に起因するものと考えられる。

これまでの「話すこと・聞くこと」の授業実践を振り返って見ると、意図的・計画的な授業ではなく、話すこと・聞くことの技術（スキル）を具体的に積み重ねていくことが不十分であった。学校教育においてその中核となるのは国語科であり、国語科における「話すこと・聞くこと」の授業をこれまで以上に改善しなければならないと考える。そのためには、まず教師自身が明確な目標を持って指導するとともに、生徒が話し方や聞き方の技術（スキル）を身に付け自信を持って話すことの楽しさや聞くことの大切さを知り意欲的に学習に参加する授業づくりを展開したいと考え本テーマを設定した。

II 目指す生徒像

学び取った言語力を実生活に活用できる生徒

- ①自分の考えを意欲的に話したり・聞いたりすることができる生徒
- ②目的や場面に応じて話すこと・聞くことができる生徒
- ③相手の立場や考えを尊重し、話し合うことができる生徒

Ⅲ 研究目標

「話すこと・聞くこと」の力を育てるために、話し方や聞き方の技術（スキル）を身に付けさせ、目的や場面に応じた言語活動を取り入れた指導の在り方について研究する。

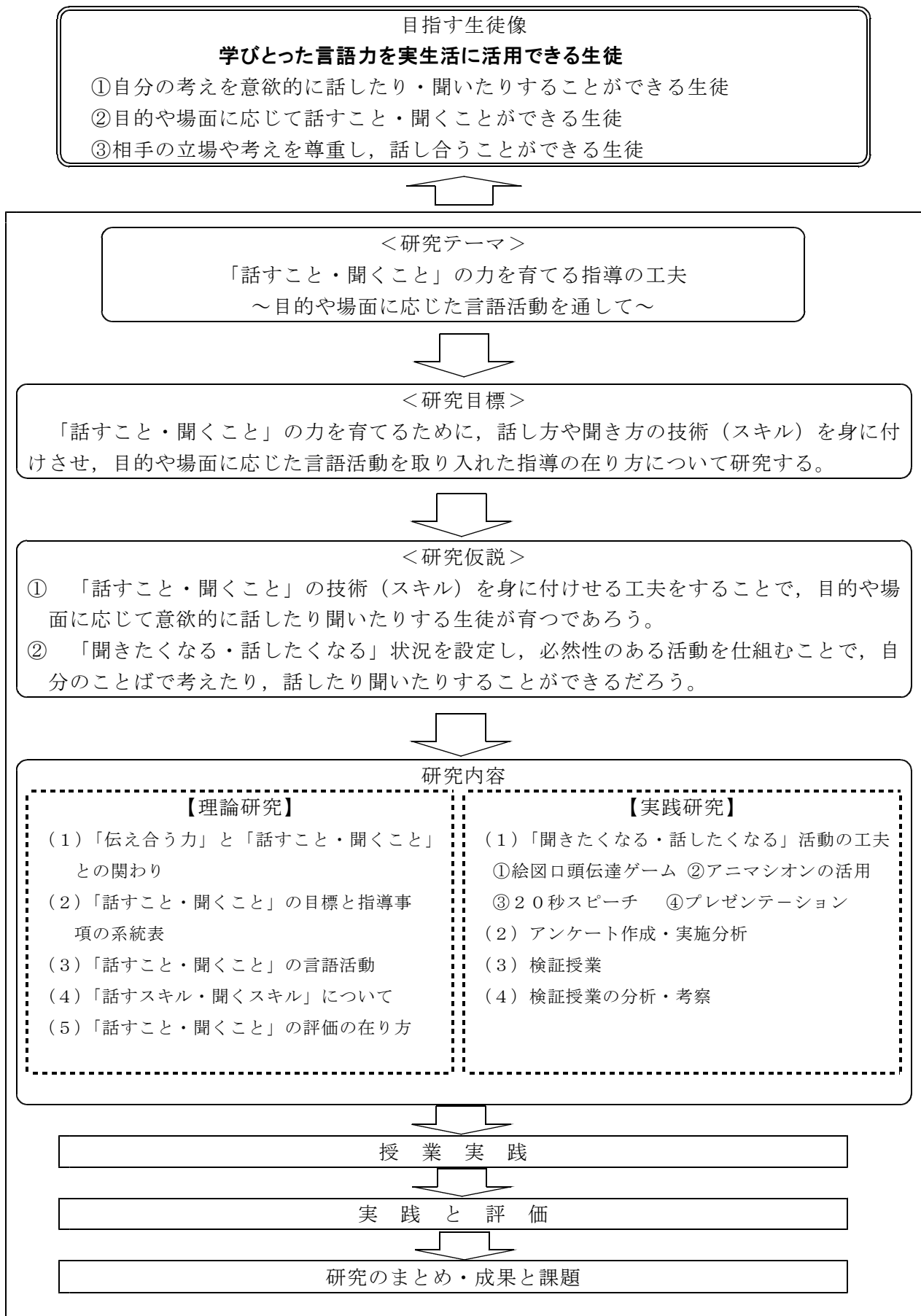
Ⅳ 研究仮説

- 1 「話すこと・聞くこと」の技術（スキル）を身に付けさせる工夫をすることで、目的や場面に応じて意欲的に話したり聞いたりする生徒が育つであろう。
- 2 「聞きたくなる・話したくなる」状況を設定し、必然性のある活動を仕組むことで、自分のことばで考えたり、話したり聞いたりすることができるだろう。

Ⅴ 検証計画

検証仮説	検証の視点	検証方法	検証場面	検証結果
仮説1 ○「話すこと・聞くこと」の技術（スキル）を身に付けさせる工夫をすることで、目的や場面に応じて意欲的に話したり聞いたりする生徒が育つであろう。	○「話すこと・聞くこと」のスキルを見通しを立てて解決しようとしているか。 ○目的や場面に応じて意欲的に取り組んでいるか。	○アンケート ○生徒の観察 ○自己評価 ○自己評価 ○VTR	○実践の過程 ○実践の前後 ○実践の過程 ○実践の過程	○数値化し、グラフに表す。 ○ワークシートの記録をそのまま残す。 ○数値化し、グラフに表す。
仮説2 ○「聞きたくなる・話したくなる」状況を設定し、必然性のある活動を仕組むことで、自分のことばで考えたり、話したり聞いたりすることができるであろう。	○「聞きたくなる・話したくなる」活動であったか。 ○自分の言葉で考えて意欲的に表現しようとしているか。	○生徒の観察 ○自己評価 ○自己評価 ○相互評価 ○VTR	○実践の過程 ○実践の過程 ○実践の過程 ○実践の過程	○数値化し、グラフに表す。 ○ワークシートの記録をそのまま残す。

VI 研究構想図



VII 研究計画

月	研究内容	計 画
4	<ul style="list-style-type: none"> ・研修テーマの設定・検討 ・参考文献・資料の収集 ・参考文献・研究資料等による理論研究 	1日 第8期研究員入所式 2日 オリエンテーション・研究の進め方Ⅰ 5日 研究の進め方Ⅱ 7日 全体構想図について 9日 テーマ検討会① 14日 テーマ検討会② 19日 テーマ検討会③ 21日 全体構想図検討会① 26日 全体構想図検討会②
5	<ul style="list-style-type: none"> ・研究についての進捗状況から今後の取り組みについて検討 ・生徒の実態把握のための事前アンケート ・参考文献・研究資料等による理論研究 ・中間検討会の資料作成 ・検証授業計画・調整・教材研究 	7日 理論研究について 12日 研修進捗状況報告 14日 先輩研究員講話 14日 中間報告会に向けて 21日 中間報告会 21日 報告書作成に向けて 24日 検証授業に向けて
6	<ul style="list-style-type: none"> ・理論研究・検証授業について ・研究についての進捗状況から今後の取り組みについて検討 ・参考文献・研究資料等による理論研究 ・検証授業計画・調整・教材研究 ・指導計画，指導案作成 	3日 大城准教授研究支援 11日 検証授業指導案検討会① 14日 検証授業開始 16日 検証授業指導案検討会② 18日 検証授業指導案検討会③ 28日 検証授業指導案検討会④
7	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究 ・検証授業の準備 ・検証授業の実施 ・検証授業の分析・まとめ 	6日 検証授業公開
8	<ul style="list-style-type: none"> ・研究報告書の作成 ・文献資料の整理 ・報告書検討会への準備 ・報告書内容の検討 	6日 報告書検討会① 11日 報告書検討会② 13日 報告書検討会③ 16日 報告書検討会④ 23日 成果報告会に向けて
9	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果報告会の準備 ・研究報告書のまとめと反省 ・年間計画，全体計画作成 ・研究報告会，研究のまとめと反省 	8日 研究成果報告会 30日 第8期長期研究員 終了式

Ⅷ 理論研究

1 伝え合う力について

(1) 伝え合う力とは

「中学校学習指導要領解説一国語編」によると、「伝え合う力」とは、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力」とされている。

特に、国語科では言語による伝え合う力を身につけることが求められている。私たちが日常生活の中で自分の考えや意見を言葉で伝えるとき、そこには伝える目的があり伝えるべき相手が存在する。一対一・一対少数・一対多数、友達や家族、年下や年上の方、私的な場面や公的な場面など様々な状況が考えられる。そのような場面や状況の中で、どのような手段で伝えるのか、場面や状況、目的などを明確にしなければならない。その表現方法として「音声言語」と「文字言語」があり、私たちは日常生活の中で目的や状況に応じて使い分けている。「音声言語」における話し言葉は、「話す」「聞く」により相手に伝える早道である。「話す」「聞く」は単に話したり聞いたりすることではなく、考えながら読み取る力も必要である。

伝え合う力は単に意見を述べる力や表現する力だけをいうのではなく、聞き取る力、読み取る力をも含んでいる。話し手と聞き手の信頼関係や聞きたいという話題性のある場合、聞き取ろうとして意識して聞く場合やもっと聞きたい、知りたいという気持ちや疑問が生じてくる。また、理解できないことがあれば、相手に聞き返し理解しようとする。そこに相互のコミュニケーションが生まれてくる。

すなわち、伝え合う力とは、他者の考えを正確に理解したり、自分自身の考えを適切に表現したりする上で最も重要な力であり、豊かな人間関係を築いていく力だととらえることができる。

(2) 「話すこと」「聞くこと」について

① 「話すこと・聞くこと」の領域の変遷

国語科の領域は、従来、「A表現」「B理解」及び「言語事項」の2領域1事項から構成されていたが、平成10年の教育審議会の答申において、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面に応じて表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力を育てることを重視することを踏まえ、平成11年に告示された学習指導要領から「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」及び「言語事項」の3領域1事項へと改められた。平成20年に告示された学習指導要領においては、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の3領域を維持しつつ、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設された。

② 「話すこと・聞くこと」とは

「話すこと・聞くこと」においては切り離して考えるものではなく、相互に関わり合って成立するものとする。私たちの生活を振り返ってみると、様々な場所で、様々な内容を様々な人々と話している。その「話す」活動には必ず聞き手の存在がある。私たちは、コミュニケーションの手段として「話す」という言語活動を行っており、互いの意思を伝え合い、確認することを目的としている。このことから、コミュニケーションを成立させるためには、互いの声を正しく受けとめ合うことが大切である。そのためには、「話すスキル」や「聞くスキル」を身に付けさせることで意欲的な話し方や聞き方ができるようになると考える。

2 「話すこと・聞くこと」の目標と指導事項

新学習指導要領では、これまで中学2、3年生でくくられていた目標及び内容が、各学年に分けて示された。よって、これまで以上に学年ごとの指導内容が明確になった。そこで改めて小学校から中学校までの各学年の指導事項と内容を一覧表にまとめてみた。(表1)

3 「話すこと・聞くこと」の言語活動

(1) 言語活動のねらい

授業において言語活動を重視するねらいの第一は、言語活動を通して「生きる力」を生徒に身に付けさせることである。現行学習指導要領において示された生きる力は、その後の社会変化に伴い新たな意味を持ちつつ、新学習指導要領（平成 20 年度版）においても基本的な理念として継承されている。河野庸介氏は、『各学校においては、「生きる力」の側面としての「確かな学力」を形成する「思考力」、「判断力」、「表現力」等を育成する必要がある。このことを実現するためには、各教科において「基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと習得させるとともに観察・実験やレポートの作成，論述といった知識・技能を活用する学習活動を行う」ことが大切である。ここに示されている「学習活動」こそが言語活動にほかならない。このように、学習活動としての言語活動は、生徒が知識・技能を「確かな学力」として身に付ける上で必要なことである。』と述べている。これらのことから、習得した知識・技能を他教科等の学習で活用したり，日常生活や社会生活で適切に働かせたりするためにも適切な言語活動を行えることが大事であり，そのための「話すこと・聞くこと」の力を身に付けさせる授業づくりが重要だと考える。

(2) 「話すこと・聞くこと」の言語活動

「話すこと・聞くこと」の言語活動として，次のようなものが考えられる。

話し言葉の言語活動	
(1)	【音読・朗読】 ① 音読・朗読 ② 読み聞かせ ③ ストーリーテリング ④ ナレーション，アフレコ（声優） ⑤ 劇（人形劇，ペープサート，紙芝居など）
(2)	【独話】 ① 説明，ポスターセッション ② 紹介，案内，推薦，など ③ 連絡，伝言，アナウンス，通知，広報 ④ 感想，意見，主張，演説，弁論，提案，批評 ⑤ 報告，報道，ルポルタージュ（体験報告，観察報告，調査報告，研究報告，実況中継） ⑥ 説得，依頼，命令 ⑦ 宣伝，プレゼンテーション，デモンストレーション ⑧ 放送，ラジオ，テレビ ⑨ 講義，講話，講演 ⑩ 文句，苦情，言い訳，弁明
(3)	【対話】 ① 挨拶，対談，鼎談，座談 ② 相談，協議，会議，審議，ブレインストーミング，バズセッション ③ 討論・討議，フリートーキング，ディベート，パネルディスカッション，フォーラム ④ 交渉 ⑤ 進行，司会，キャスター
(4)	【聞く】 ① 質問，質疑応答 ② インタビュー，聞き書き ③ 面接

本研究では、中学校新学習指導要領の示す「話すこと・聞くこと」の言語活動例の中から取り上げてを行うこととする。言語活動例として、1学年では「報告、紹介、質問、助言、対話、討論」、2学年では「説明、発表、討論」、3学年では「スピーチ、説得」がある。

富山哲也氏は、「国語の授業の中で言語活動を具体化していく際の要点として、学習過程を包含した言語活動を意識することである。」と述べている。新学習指導要領では、「A話すこと・聞くこと」の学習過程を、「話題設定や取材」「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」としている。このうち「話すこと」については主として話を準備する段階で指導する内容と、実際に声に出して話す段階で指導する内容を分けて示すようにされている。

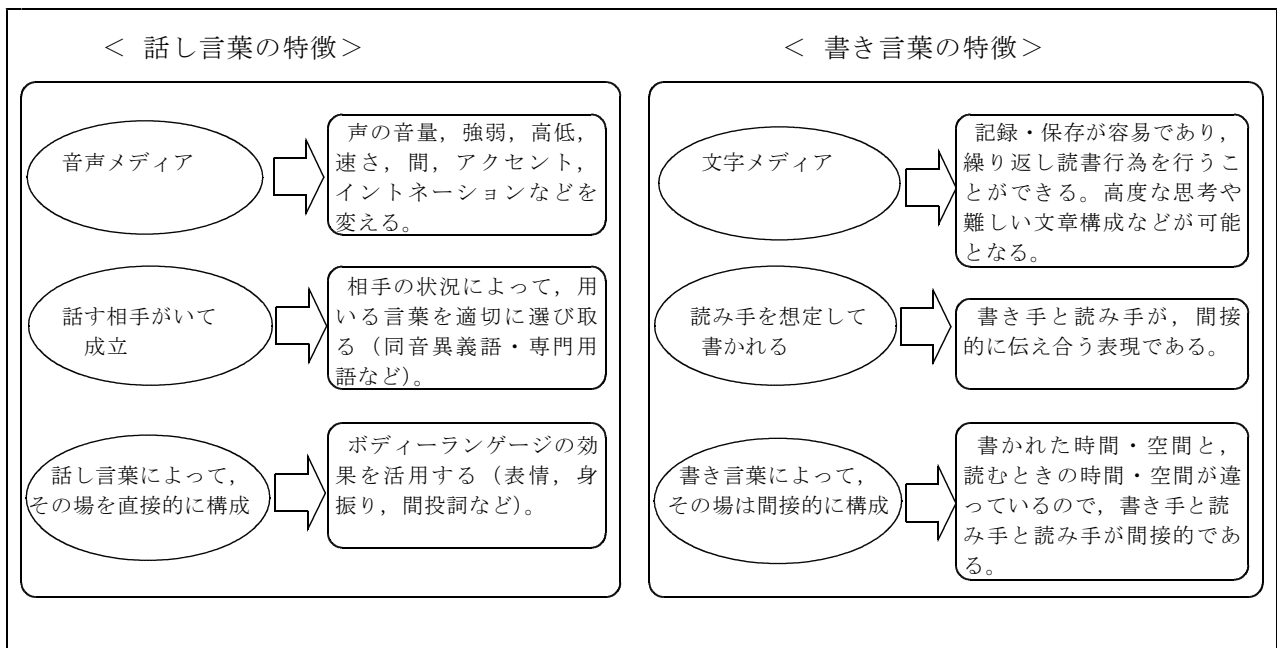
- ◇ 話題を決めて取材をする→話すために準備する→実際に話す→聞く
- ◇ 話題を決めて取材をする→話し合うための準備をする→話し合いをする

これにより、「話すこと・聞くこと」においては、話し手だけでなく聞き手も目的意識を持ち意欲的に取り組むような授業を考えることが大切である。このことは、学習過程が課題を解決する過程としてもとらえることができる。

(3) 話し言葉（音声言語）の特徴と書き言葉（文字言語）の特徴について

話し言葉（音声言語）と書き言葉（文字言語）の違いを自覚することは、話す力・聞く力を高めることにつながると考える。話し言葉は音声を中心であり書き言葉は文字が中心となる。

話し言葉においては、話すときの音量や強弱、高低、アクセント、イントネーションなどは聞き手に理解してもらうための大きなポイントとなる。書き言葉においては、記録・保存が容易であり繰り返し文章を確認することができる。このような違いを理解することによって、そのときの場面や状況で使い分けることができ、より効果的な表現ができる。そこで、井上一郎著（有馬ゆかり執筆）の「音声言語の特徴を知る」を参考に下記のような図に示し、違いが見えるようにした。（図1）



(図1) 「話し言葉と書き言葉の特徴」

引用：明治図書 井上一郎著（有馬ゆかり執筆）

(4) 「話すスキル」「聞くスキル」「話し合うことのスキル」について

本研究は、生徒が具体的なスキル（技術）を身に付けることで、気づいたり、感じたり、意欲的に話したり聞いたりすることを目的とする。そこで、「話すこと」「聞くこと」のスキル（技術）を甲斐睦朗氏・興水かおり氏による「新学習指導要領（国語）における基盤となる言語技能」を表したものから以下のような表を作成した。（表2）

話すスキル・聞くスキル・話し合うスキルを身に付けることは、言語活動を支える上で必要な力である。例えば、スピーチをする場合、話し手は「はっきりした発音で話す・相手や目的に応じて話す・筋道を立てて話す」などのスキル意識させる。また、聞き手には「話し手を見ながら聞く・話し手に反応を示して聞く・聞いた内容をメモしながら聞く」ことを意識させる。このように意識させることによって、話し方・聞き方を考える視点を持たせる学習活動が必要である。このような学習活動によって、必要な知識やスキル（技術）を頭で理解するだけでなく、実践的に身に付けていくことができると考える。

「話すスキル」「聞くスキル」「話し合うことのスキル」表

◎重点的な指導事項 ○指導事項

	話 す ス キ ル	幼	小学校			中 学
			低	中	高	
1	身近なことや経験した事柄の順序を考えて話す。		◎	◎		
2	姿勢や口形に注意して話す。	○	◎	○	○	○
3	はっきりした発音で話す。	○	◎	○	○	○
4	必要な事柄が何かを考えて話す。		◎	○		
5	相手や目的に応じて丁寧な言葉で話す。		○	◎	○	○
6	筋道を立てて話す。			◎	○	○
7	相手を見て話す。	○	○	◎	○	○
8	言葉の抑揚、強弱、間の取り方を工夫して話す。			◎	◎	○
9	図表や絵、写真などを挙げながら話す。			◎	◎	○
10	理由や事例などを挙げながら話す。			◎	◎	○
11	語尾まではっきりと話す。	○	◎	◎	◎	○
12	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話す。				◎	◎
13	要旨が明確になるように、構成を工夫して話す。				◎	◎
14	事象と感想・意見と関係が分かりやすいように話す。				◎	◎
15	共通語と方言との違いを理解し、必要に応じて共通語で話す。				◎	◎
16	資料を提示しながら説明や報告をする。				◎	◎

	聞 く ス キ ル	幼	小学校			中 学
			低	中	高	
1	1回で聞く。		◎	○		
2	集中して聞く。	○	◎	◎	○	
3	最後まで聞く。	○	◎	◎	○	○
4	話し手を見ながら聞く。	○	◎	○	○	○
5	分からないことは尋ねながら聞く。		○	◎	○	○
6	内容を落とさずに、付け加えずに聞く。		◎	◎	○	
7	話題をとらえて聞く。		○	○	◎	○
8	話の中心点を聞く。			◎	◎	○
9	話の組み立てを考えながら聞く。			◎	◎	○

10	話された話題に対して、さらに情報を得ようとする。		○	○	◎	○
11	話し手に反応を示して聞く。(うなづきながら聞く)		○	○	○	○
12	話し手の要旨を考えながら聞く。			◎	◎	○
13	聞いた内容をメモに書きとめる。			○	◎	○
14	事象と感想・意見との関係を比較しながら聞く。			○	◎	◎
15	話の内容と自分の生活や意見と比較しながら聞く。				◎	◎
16	主張とそれを支える根拠との関係を考えながら聞く。				◎	◎
17	話し手の意図を考えながら聞く。				◎	◎
18	論理の展開を考えながら聞く。				◎	◎
19	疑問に思うところを、確認したり質問したりしながら聞く。		○	○	◎	◎
20	話し手の立場を考えながら聞く。				◎	◎
21	目的を自覚して聞く。				○	◎
22	すでに持っている情報との関連を考えて聞く。				○	◎
23	聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深める。					◎

	話し合うことのスキル	幼	小学校			中学
			低	中	高	
1	互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。		◎	○		
2	尋ねたり、応答したりする。		◎	○		○
3	グループで話し合って意見を一つにまとめる。		◎	○	○	
4	物事の説明や経験の報告を聞いて、感想を述べる。		◎	○	○	
5	互いの考えの共通点や相違点を考えて話し合う。		○	◎		○
6	司会や提案などの役割を果たす。			◎	○	○
7	進行に沿って話し合う。			◎	○	
8	出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。			◎	○	○
9	学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりする。		○	◎	○	
10	互いの立場や意図をはっきりさせて話し合う。				◎	◎
11	計画的に話し合う。				◎	◎
12	資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする。				◎	◎
13	調べたことやまとめたことを提案する。				◎	◎
14	相手の発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめること					◎
15	互いの発言を検討し、自分の考えを広げる。					◎
16	進行の仕方を工夫し、課題解決に向けて互いの考えを生かし合うこと					◎

(表2)「スキル表」 引用：教育開発研究所編集 甲斐睦朗・奥水かおり(青南小学校研究紀要,平成21年)

4 「話すために書く」「聞き取るために書く」について

(1) 「話すために書く」

話すために書くとは、話す目的のために自分の考えを深めたり、整理したりすることである。誰に向かって、どのような順序で、どんなことを書くのか再確認することで話すことが具体的にまとめられる。また、後で振り返るための記録としてメモを取ったりすることでもある。目的や状況に応じて話す言葉や内容を準備できるという利点がある。

<種類として>

- ①フル原稿(話す内容を原稿用紙にすべて書いたもの)
- ②アウトライン原稿(話す内容の展開が分かるように要点に即して、原稿用紙やメモ用紙に書いたもの)
- ③データ原稿(数値や重視されるデータや複雑な資料などがメモ用紙やカードなどに書かれている)

(2) 「聞き取るために書く」

聞き取るために書く場合は、大切なことを忘れないために書くことが必要となる。このとき5W1Hを基本として書くことが大切である。後で読み返したとき必要な情報と不必要な情報とに分類整理できる。このほかにも思いついたことや気づいたことをメモする、聞いた言葉や感動した言葉を抜き出してメモすることなどが挙げられる。特に、言葉が話された瞬間に音声が消えていくので、注意して聞かなければならない。メモには次のような目的がある。

<目的として>

- ①記録のためのメモ（覚え書きや取材,事実として記録しておくもの）
- ②理解を深めるためのメモ（要点を押さえたり,構造を分析したり評価したりするもの）
- ③着想や構想のためのメモ（連想・発想,考案・立案など）
- ④伝言メモ（聞いたことや伝えたいことなど）

5 「話すこと・聞くこと」の評価の在り方

(1) 評価の基本的な考え方

学習指導要領の目標と内容を系統的に整理し、評価規準を設定することで、指導者は各学年の指導事項を把握し、明確な目標を持って指導を行うことができる。また、具体的な評価を行い、系統表をもとに発達の特性に応じた指導を行うことができると考える。生徒に自分の到達目標を持たせることで、自分の力を知り「こんなことができるようになりたい」「こんな力を伸ばしたい」という意識を持たせ見通しを持って学習を進めることができる。

評価は生徒のこれまでの学習に取り組んできた結果であり、次への学習意欲を喚起するものでなければならないと考える。従って結果のみではなく、学習の過程を重視し、学ぶ態度や意欲、問題解決能力、自己評価、相互評価など多くの場面から評価をしていきたい。

(2) 「話すこと・聞くこと」の評価基準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力
社会生活の中から話題を決め、話したり合ったりするための材料を多様な方法で集めたり必要な情報を整理しようとしている。	・異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめている。 ・話の中心部分と付加的な部分などに注意して、聞き取ったりしている。 ・事実と意見との関係に注意し、論理的な構成や展開を考えて話している。 ・目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話している。 ・話の論理的な構成や展開に注意して聞き、自分の考えと比較している。 ・相手の立場や考えを尊重し、目的場面に応じて話したり聞き分けたりしている。 ・互いの共通点や相違点などを聞き分け自分の考えを広めたり深めたりしている。

(3) 第2学年「話すこと・聞くこと」の評価基準（表3）

第2学年「話すこと・聞くこと」の評価基準(表3)

教材名	領域	話題設定や取材	話すこと	ウ	エ	オ	ア	イ
	指導事項 関心・意欲・態度	ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするのための材料を多様な方法で集め整理する。	イ 異なる立場や考えを想って自分の考えをまとめる、話の中心の部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す。	ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話す。	エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。	オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。	ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、意見を述べたりする。	イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行う。
「聞く生活」を考えよう	進んで聞き取り活動に参加し正確に聞き取りや聞き分けの力をつけようとしている。	・目的や状況に応じて情報を収集・選択している。	・話の構成や語句・表現を工夫して効果的に伝えている。 <スキル> ・はっきりした発音で話す。 ・事象と感想・意見との関係がわかりやすいように話す。 ・事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫して話す。	・機器を効果的に使って資料を作成するなど、わかりやすい発表になるように工夫している。 <スキル> ・資料を提示しながら説明や報告をする。	・話の構成や展開を考えて聞き分けている。 <スキル> ・話を聞きながらメモを取る。 ・話し手の意図を考えながら聞く。	・発表について評価し合い、自分のものの方や考え方を広げている。 <スキル> ・相手の発言を注意して聞き自分の考えをまとめる。	・聞き取り	
提案の仕方方を工夫しよう 「プレゼンテーション」	グループの話し合いに進んで参加し、資料を活用してわかりやすいプレゼンテーションを行っている。	・目的や状況に応じて情報を収集・選択している。 ・調査方法を工夫して必要な情報を集めている。	・話の構成や語句・表現を工夫して効果的に伝えている。 <スキル> ・はっきりした発音で話す。 ・事象と感想・意見との関係がわかりやすいように話す。 ・事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫して話す。	・機器を効果的に使って資料を作成するなど、わかりやすい発表になるように工夫している。 <スキル> ・資料を提示しながら説明や報告をする。	・メモを取りながら自分の考えと比較している。 <スキル> ・話し手を見ながら聞く。 ・話し手に反応しながら聞く。 ・話し手の意図を考えながら聞く。 ・疑問に思うところを、確認したり質問したりしながら聞く。	・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。 <スキル> ・尋ねたり応答したりする。 ・相手の発言に注意して聞き自分の考えをまとめる。 ・互いの発言を検討し、自分の考えを広げる。	・説明や発表	
走れメロス 「討論をする」	作品世界や登場人物を自分なりにとらえ、進んで読もうとしている。					・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。 <スキル> ・尋ねたり応答したりする。 ・相手の発言に注意して聞き自分の考えをまとめる。 ・互いの発言を検討し、自分の考えを広げる。	・討論	
小さな「物語」を探る 「インタビュー」で取材する	どんなものにもそれにかかわった人の思いがあることを理解して、インタビューや聞き書き文集の活動に取り組みようとしている。	・社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするのための材料を多様な方法で収集している。	・異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめる、話の中心の部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話している。 <スキル> ・はっきりした発音で話す。 ・相手を見て話す。 ・相手や目的に応じて丁寧な言葉で話す。 ・事象と感想・意見の関係がわかりやすいように話す。	・話の構成や語句・表現を工夫して効果的に伝えている。 <スキル> ・はっきりした発音で話す。 ・事象と感想・意見との関係がわかりやすいように話す。 ・事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫して話す。	・話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。 <スキル> ・聞いた内容をメモする。 ・分からないことは尋ねながら聞く。 ・話題をとらえて聞く。 ・話し手に反応して聞く。 ・話し手の意図を考えながら聞く。 ・論理的な展開を考えながら聞く。 ・自分の生活や意見と比較しながら聞く。	・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。 <スキル> ・互いの共通点や相違点を考えて話し合う。 ・相手の発言を注意して聞き自分の考えをまとめる。	・インタビュー	

Ⅸ 実践研究

1 検証授業

第2学年 国語学習指導案

平成22年7月 6日 5校時
宮古島市立狩俣中学校 2年1組
男子9名 女子5名 計14名
授業者 仲梶 京子

(1) 単元名 提案の仕方を工夫しよう 「プレゼンテーション」

(2) 単元目標

- ◎目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話したり聞いたりすることができるようにする。
- グループのメンバーと積極的に話し合い、協力しながらプレゼンテーションの工夫ができるようにする。
- 伝える目的に応じて、情報を検索したり選択することができる。
- プレゼンテーションの内容が効果的に伝わるように、根拠を明確にし、発表の構成を考えて話すことができるようにする。
- 発表について聞き手の反応を予測した説得力のある発表であったかどうかを評価し合うことができるようにする。

(3) 単元について

① 教材観

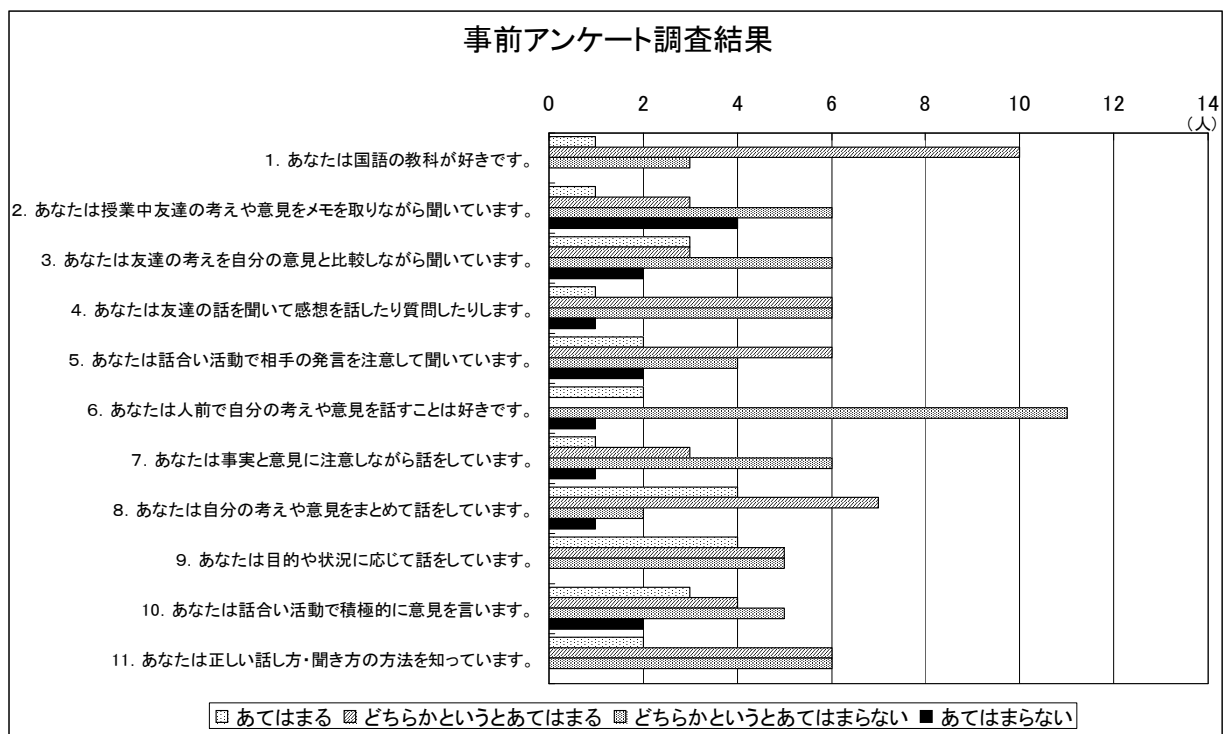
プレゼンテーションとは、提示、発表、紹介。企画や提案などを特定の相手に向けて説明する活動である。聞き手の理解や同意を得るためには、さまざまな資料を使って、わかりやすく、論理的に説明していく工夫が必要となる。理解を得るためには、話したり聞いたりする活動が必要である。どうすれば相手に伝わるのか、自分たちの考えやアイデアを出し合い工夫しなければならない。テーマを決めるにおいてもグループ内での話し合いが大切となる。一人一人が自分の意見や考えを出し合い決めていかなければならない。そこには、話したりメモを取ったり、尋ねたりという活動が行われる。この活動をとおして友達や先生の考えや意見を聞くことで自分の考えと違うことや同じことに気づくであろう。比較することで自分の考えがさらに深まったり広がったりしていくのよ活動だといえる。また、プレゼンテーションにどれだけ興味関心を持ち意欲的に取り組むことができるか、ということが大切である。そのためには、発表するための情報収集や整理、話すために書く力も必要となる。相手を意識して話すためには、考えて準備をしなければならない。発表するという言語活動を通して、話すことや聞くことが高められる教材であると考えられる。

② 生徒観

本学級の生徒は、明るく仲がよいが、話すことに関しては、個人差が大きい。1年生の1学期終わりまで、授業の中で自分から積極的に発言する生徒はあまりいなかった。2学

期から意図的に授業の終わりや単元の終わりに感想を発表し合う活動等を設けた。最初の頃はなかなか感想を発表することもできなかつたが、繰り返し積み重ねていくうちに感想が言えるようになってきた。全然発表できない生徒もいたが友達の発表を聞いているうちに、発表の仕方を学び自分の発表に取り入れて話せるようになった生徒もいる。2年生に進級し、自分の考えや意見を少しずつ話すようにはなったが一方的に自分の思いを話したり、聞き手にわかりやすく要点をまとめて話すということが、なかなかできていないという場面が見られる。また、一方、積極的に自分の思いを発表することはないが指名されたり、発表の順番が回ってきたときには、自分の考えをまとめて分かりやすく話す生徒もいる。

そこで、「話すこと・聞くこと」に関するアンケート調査を実施したところ、以下のような結果が得られた。これらのことから、聞くことにおいてメモをとることや自分の意見と友達の意見と比較しながら聞く、人前で話すということに課題があることが分かった。これらのことから、「聞く」という活動を意図的に組み入れながら「話す」という言語活動を通して、生徒の「話すこと・聞くこと」の力を高めていきたい。



③ 指導観

1年次でもスピーチ活動は体験している。総合的な学習の時間でプレゼンテーションによる発表は経験しているが2年生では、国語の時間の教科として、相手意識、目的意識、場面意識、方法意識、評価意識を持たせた指導を行いたい。

指導にあたっては、導入で学習の目標を明確にし、「聞きたくなる・話したくなる」ようなゲームなどを取り入れ生徒の気持ちや声を引き出す雰囲気作りを心がける。

本単元で学習する「プレゼンテーション」とは、理解や同意を得るために、特定の相手に向けてアイデアを提案することである。相手の理解や同意を得るためには、どのような工夫をすればよいのか、といった相手意識を持たせた発表を行わせたい。その際、プレゼンテーションという語の意味や、スピーチとの違いを明確にし、これまでの「話す・聞く」の授業を振り返らせ、わかりやすい発表をするための工夫点として、目的は何か、何を伝えるのか、発表の仕方などについて確認させる。また、筋道を立てた構成を考える、視覚に訴えるなど説得力を持たせる工夫を考えさせながら取り組む必要がある。そのためには、自分たちの身の回りからプレゼンテーションのテーマを見つけることがポイントに

なる。自分たちがやってみたい、調べてみたいという興味や関心を引きつけるテーマを見つけさせたい。

次に、テーマについて教科書や本、雑誌、新聞、インターネットなどを利用して情報を収集させる。必要な情報とは何か、どんな調査法で行えばよいのか話し合い、情報を収集し必要なものとそうでないものに整理させる。「わかりやすいプレゼンテーション」をするための構成の工夫として絵コンテに説明の順序、資料の種類、資料の提示の仕方、説明の時間配分と担当者・注意点などをまとめさせる。絵コンテを使うことで、具体的なイメージが増し、全体の流れも把握しやすい。

今回の学習は、自分の考えや調べたことを述べるだけではなく、聞き手に「なるほど。」「自分もそう思う。」といった気持ちを起こさせるような説得することをねらいとして活動に取り組む。さらに、発表の内容の理解を深めるために、発表後に質疑応答の時間を設定する。ほかのグループの発表から多くのことを学べるように、聞き取りメモを取らせる。聞きながらメモすることは、疑問点や分かったことなど振り返ったときに自分の考えをさらに広げることにつながると考える。

(4) 指導計画

	時	学習内容	主な言語活動
はじめに (意欲づけ)	1	○学習の見通しを立てる。 ○学習の目標を知る。 ○絵図口頭伝達ゲーム	・音声だけで「伝え合う」【話すこと】【聞くこと】 ・メモを活用して「伝え合う」【話すこと】【聞くこと】
	2	○アニメーション ○5W1Hクイズを行う。	・読み聞かせを聞く。【聞くこと】 ・質問に答える。感想を話す。【話すこと】
	3	○「話し方の話型」を確認する。 ○「話すスキル」「聞くスキル」「話し合うこと のスキル」を知る。○20秒スピーチ	・話し方の話型を練習する。 ・滑舌の練習や詩の朗読をする。【話すこと】 ・スキルを理解する。【聞くこと】
話すこ と・聞 くこ と	4	○学習の見通しを確認する。 ○20秒スピーチ ○プレゼンテーションの意味とスピーチの違 いを知る。	・声に出して話をする。【話すこと】 ・話すことをメモする。 ・プレゼンテーションとスピーチについて説明を聞く。 【聞くこと】
	5	○教科書のCDを聞きプレゼンテーションの 発表例を知る。絵コンテについて知る。 ○グループ作り ○プレゼンテーションの準備について知る。	・集中して聞く。【聞くこと】 ・グループで話し合う。【話すこと】【聞くこと】 ・プレゼンテーションの準備について理解する。
	6	○テーマについて考えを出し合う。 ○プレゼンテーションのテーマを決定する。 ○テーマについて情報を収集する。	・テーマについて考えを出し合う。【話すこと】【聞くこと】 ・テーマについての情報収集【話題設定や取材】 ・プレゼンテーションのテーマを決定する。
	7	○テーマの確認と分析を行う。 ○テーマについてウエビングを行う。	・プレゼンテーションの目的を確認する。 ・提案の根拠を考え、アイデアを出し合う。 【話すこと】【聞くこと】
	8	○プレゼンテーションのテーマについての原 稿を作成する。	・発表原稿を作成する。【書くこと】 ・提案理由と根拠について話し合う。【話すこと】【聞くこと】
	9	○提案理由と根拠について考える。 ○役割を分担する。	・グループで話し合う。【話すこと】【聞くこと】 ・効果的な資料にするために話し合う。【話し合うこと】
	10	○効果的に伝えるために構成や提示の仕方を 考えたり、資料を作成する。 ○プレゼンテーションの練習	・効果的に伝えるために構成や提示の仕方を考える。 ・聞き手を意識して説得するように話す。 【話すこと】【聞くこと】
	11 本 時	○プレゼンテーション発表 ○質疑応答をする。 ○相互に評価し合う。	・はっきりした声で伝わるように話す。【話すこと】 ・聞き手を意識して説得するように話す。 ・効果的な資料の提示をする。 ・メモを取る。【聞くこと】 ・質疑応答。自己評価・相互評価をする。
	12	○これ間での学習を振り返る。 ○事後のアンケート調査・感想など ◆学習で身についた力を次の学習へつなげる。 ◆総合的な学習につなげる。→2学期の職場 体験学習や他教科	・これまでの学習を振り返り、自己評価をする。 ・お互いの発言を検討して自分の考えを広げる。 【話し合うこと】

(5) 本時の展開

① 本時の目標

- 意欲的にグループのプレゼンテーションをする。
- 聞き手の理解や同意を得られるように、話し方や資料の提示を工夫して発表することができる。
- 互いの発表を聞き、感想や疑問点を評価表に記入し尋ねたり答えたりすることができる。

② 授業仮説

- プレゼンテーションのテーマについて図や絵コンテにする工夫を行うことにより、意欲的に発表することができるだろう。
- 互いの発表を聞き、感想や疑問点を評価表に記入することで、質問したり答えたりすることができるであろう。

③ 評価規準

評価の観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	○グループの話し合いに積極的に参加している。 ○プレゼンテーションのテーマにや方法について具体的な提案をしている。	・観察
ア 話題設定 や取材	○目的や状況に応じて情報を収集・選択している。 ○調査方法を工夫して必要な情報を集めている。	・ワークシート ・ファイル
イ 話すこと ウ 話すこと	○話の構成や語句・表現を工夫して効果的に伝えている。 ○資料を効果的に使って作成するなど、わかりやすい発表になるように工夫している。	・ワークシート・観察 ・ワークシート・観察 ・絵コンテ
エ 聞くこと	○メモを取りながら感想や疑問点を記入している。	・ワークシート・観察
オ 話し合う こと	○相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合っている。 ○互いの発言を検討して自分の考えを広げている。	・観察・ワークシート

④ 本時の展開

過程	学習の活動	教師の支援・留意事項	評価
導入	1 本時の目標を確認する。 本時の目標 ①意欲的にグループのプレゼンテーションをする。 ②聞き手の理解や同意を得られるように、話し方や資料の提示を工夫して発表することができる。 ③互いの発表を聞き、感想や疑問点を評価表に記入し、尋ねたり答えたりすることができる。		○ 学習に向かう態度ができてきている。 【関心・意欲・態度】
	2 リハーサルで確認したことやアドバイスされたことを再度確認してからプレゼンテーションをする。 ・発表で使うものを確認する。 (図や表など)	・司会を事前に決めておく。 プレゼンテーションを行う時のポイントを再度確認させる。 ①相手意識	○ 意欲的に取り組もうとしている。

		②目的意識 ③話の組み立て ④話し方の工夫 ⑤資料提示の工夫	
展開	3 プレゼンテーションをする。 <話すスキル3・6・12・16> <聞くスキル2・11・16・23> ・評価プリントの記入の仕方を確認する。 ・グループごとに順番にプレゼンテーションをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">発表順番</div> 1 グループ テーマ：「体育祭に取り入 りたい種目」 3 グループ テーマ：「学級や学校の問 題点」 2 グループ テーマ：「狩俣中学校の誇 れるもの」 ・各グループ発表が終わったら 質疑応答をする。	・事前に発表順番を決めておく。 ・プレゼンテーションが終わ ったら自己評価を記入する ように伝える。 ・疑問に思ったことなどをメ モさせておき質問させる。 ・グループの発表が終わるご とに各自評価プリントへ記 入するよう指示しておく。 ・疑問に感じたことや詳しく 聞きたいことはないか伝える。	○ 相手を意識して話したり 聞き聞いたりしている。 【イ話すこと】【ウ聞くこと】 ○ 話の構成はよい。 【イ話すこと】 ○ 話の順序がわかりやす い。 【イ話すこと】 ◎ 話し方は説得しよう としている。【ウ話すこと】 ◎ 資料の提示は効果的 である。 【ウ話すこと】 ◎ 話を聞いてメモを取 っているか。【エ聞くこと】 ◎質問したり答えたりして いる。 【エ聞くこと】
	4 相互交流をする。 ・各グループの発表でどのグル ープが説得力はあったのか、 資料の提示等はよかったのか、 発表の工夫はされていたか。 それぞれの評価を基に話し合 う。 ・各グループの代表が話し合わ れたことを発表する。	・メモを基に話し合うように 伝える。 ・自分のグループの発表と聞 き比べてどうなのか考える ように伝える。	○ 自分のグループの発表 と比較しながら話してい るか。【話し合うこと・オ】
まとめ	5 プレゼンテーションを行った 感想を書き発表する。	・学習を振り返えさせる。	

④ 評価

- 意欲的にグループのプレゼンテーションに取り組んだ。【関心・意欲・態度】
- 聞き手の理解や同意を得られるように話し方や資料の提示を工夫して発表することができた。【ウ 話すこと】
- 互いの発表を聞き、感想や疑問点を評価表に記入し、尋ねたり答えたりすることができた。【エ 聞くこと】

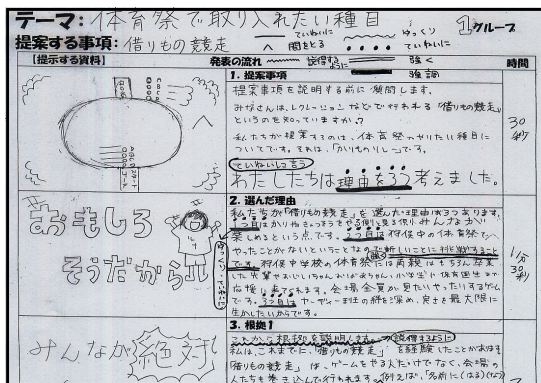
2 授業仮説の検証

(1) 授業仮説 1 の検証

検証の視点：プレゼンテーションのテーマについて図や絵コンテにする工夫を行うことにより、意欲的に発表することができたか。

① 授業の様子から

- ・各グループとも絵コンテを活用し、発表原稿を作成することができた。
- ・発表の内容を練り直し、言いやすい言葉に置き換えたり、抑揚をつける記号を入れることにより、自分の発表する箇所を話しやすくした。
- ・グループによっては、話の組み立てがなかなか進まず時間がかかっていたが、何度もグループでアイディアを出し合いながら決めていった。なかなか進まないグループには、「なぜ、このテーマを選んだのか」目的意識を確認させ、どんな順序でやればより効果的か、考えさせることで絵コンテと原稿を仕上げるすることができた。
- ・難しい言葉をやさしい言葉に言い換えて練習し、意欲的に取り組むことができた。
- ・図を使ったグループやパワーポイント、絵の使用、身体表現、実物（賞状・楯）などを、テーマに併せて工夫することができた。（写真1）



発表原稿のワークシート



(写真1) グラフを用いた説明 プレゼンテーション

<生徒のワークシートと参観者の感想から>

【生徒の感想】	【参観者の感想】
<ul style="list-style-type: none"> ・絵コンテを作ったのであせらず、ゆっくりと発表できたのがよかった。 ・グラフを使ってやったのでうまく説明できた。 ・原稿を覚えて強弱をつけて発表できたのでよかった。 ・校長先生から賞状と楯を借りてやったのでやりやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションもパワーポイントや図、絵コンテに併せて準備がされていてよかった。 ・図を使った発表は説得力があってよかった。 ・各グループ共に発表に工夫を凝らしていてよかった。(実際に腰パンしたり、パワーポイントを工夫したり)

② 考察

プレゼンテーションでは、資料や機器などを効果的に活用して話すことができるように指導を行った。そのため、テーマについては、自分たちの身の回りから興味・関心のあるテーマを見つけさせることで、各グループがパワーポイントや絵や図、ジェスチャーを取り入れるなど意欲的に工夫を凝らした発表ができた。また、テーマについてのアンケートや調べたことを基に、発表の台本である絵コンテと原稿を仕上げることができた。さらに、発表に向けて、時間をかけて資料を準備したり原稿を覚えたり、難しい言葉をやさしい言葉に言い換えて練習していたことから、ほとんどの生徒が発表への心構えができた。生徒からは、グラフを使ってうまく説明できたという感想や参観者からは、図を使った発表は効果的であったという声があがった。授業後のアンケートでは、生徒14人中7人が「意欲的に発表した」と答え、「どちらかというとい意欲的に発表した」と答

えた生徒は6人おり、これらを合わせて13人が肯定的に捉えていることから図や絵コンテによる発表の工夫をさせたことが、意欲的な発表につながったと考える。

(2) 授業仮説2の検証

検証の視点：互いの発表を聞き、感想や疑問点を評価表に記入することで、質問したり答えたりすることができたか。

① 授業の様子から

- ・互いの発表を聞き、評価表に感想を記入し発表することができた。(写真2)
- ・互いの発表を聞き、疑問点を記入した生徒は質問することができた。(写真2)
- ・発表を聞き、疑問点を記入していないが指名されると質問することができた。(写真3)



(写真2) 評価表に感想や疑問点を記入



(写真3) 指名されて質問している様子

<生徒のワークシートと参観者の感想>

【生徒の疑問点や感想】	【参観者の感想】
<ul style="list-style-type: none"> ・「借りるものがない場合はどうするんですか。」 ・「腰パンは直ると思いませんか。」 ・「追い込み漁体験学習で、けが人や死者はこれまでにでなかったのか。」 ・発表の仕方は資料だけでなく、ジセスチャーなども入るということが分かった。 ・円グラフを使っでの説明が分かりやすかった。 ・賞状や楯などを使っていたので説得力があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問点をメモしていた生徒は発表していた。 ・感想は書いていたが疑問点が書いている生徒が少なかった。 ・発表を聞きながら考えてメモをとるなど、集中して取り組む態度が課題である。 ・発表の内容について、疑問等を必ず記入させること。

② 考察

各グループの発表を聞き、疑問点やよい点、新しく知ったことなどの感想を記入している生徒が多く見られ発表もできた。ワークシートからも「円グラフを使っでの説明が分かりやすかった。」「賞状や楯などを使っていたので説得力があった。」など自分のグループの発表と比較した感想が見られた。質疑応答では、疑問点を記入してある生徒は「借りるものがない場合はどうするんですか。」「腰パンは直ると思いませんか」など、自分の言葉で質問することができたが、書いていない生徒は積極的な質問ができなかった。

しかし、司会者が指名して発言させると評価表に疑問点を書いていなくても質問できた生徒もいた。頭では考えているが、発表のみに気を取られ評価表に記入していなかったということが考えられる。参観者の感想で「発表の内容について、疑問点を必ず記入させること」とあるように、教師は授業の中で生徒への指示を明確にし、感想だけでなく疑問点もしっかりと記入させることが大切である。また、評価表を記入しやすくする工夫や日頃からメモを取り、感想や疑問点などを確実に書かせる積み重ねが大切だと考える。

X 研究のまとめ

1 研究仮説 1 の検証

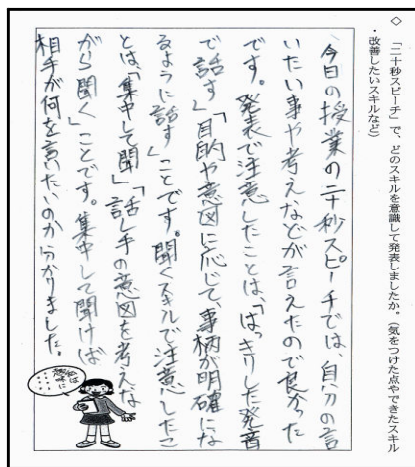
「話すこと・聞くこと」の技術（スキル）を身に付けさせる工夫をすることで、目的や場面に応じて意欲的に話したり聞いたりする生徒が育つであろう。

(1) 検証の視点

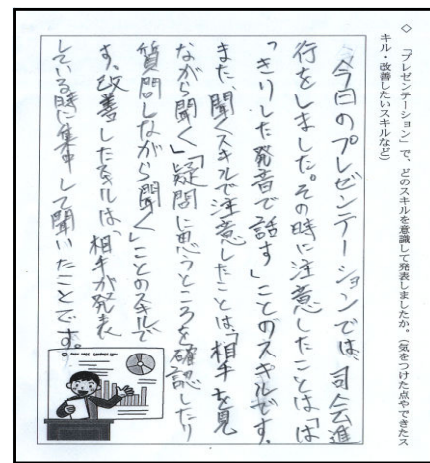
【視点1】「話すこと・聞くこと」のスキルを見通しを立てて解決しようとしているか。

① 授業の様子から

- ・「話すこと・聞くこと」の授業において、1時間ごとの授業で「今日は、このスキルを意識してやろう」という意識づけをして授業を進めていった結果、時間の経過とともにスキルを意識して自分の課題を解決しようとしている様子が見られた。



「20秒スピーチの記入例」



「プレゼンテーションの記入例」

<ワークシートの感想>

A男「20秒スピーチ」

- ・今日の授業の感想は、20秒スピーチで「話すスキル」の「はっきりした発音で話す」「語尾まで話す」ということがあまりできなかったので直していきたいです。友達の発表を聞くとき注意したいことは「話題を捉えて聞く」ということです。自分と違うことを言っていたからいいと思いました。

A男「プレゼンテーション」

- ・プレゼンテーションでは「話すスキル」の間の取り方を意識して読んだらうまく読めました。あと、前はできなかった「はっきりした発音で話す」「語尾まで話す」ということができたのでよかったです。

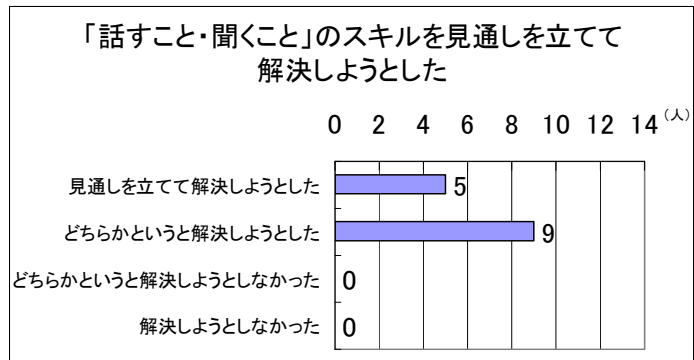


(写真4)「20秒スピーチ」



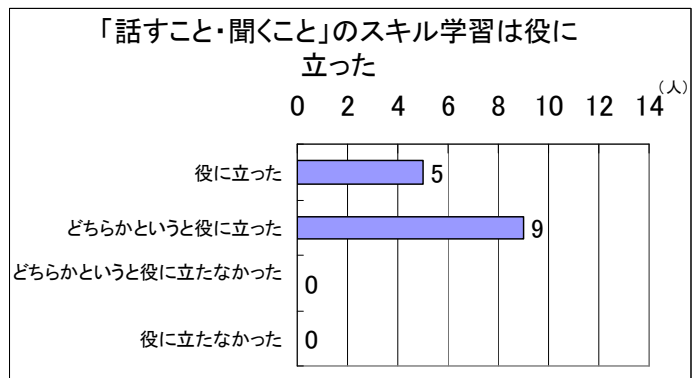
(写真5)「話すスキル」を意識し発表

- ② アンケートの結果から
- アンケートの結果から「話すこと・聞くこと」のスキルを見通しを立てて解決しようとしたことについては「見通しを立てて解決しようとした」と答えた生徒が14人中5人、「どちらかというで見通しを立てて解決しようとした」と答えた生徒が9人であった。



(グラフ1)

- 「話すこと・聞くこと」のスキル学習については、14人中5人が「役に立った」9人が「どちらかといえば役に立った」と答えている。その理由として「きちんとした言葉遣いがわかった」「声に強弱をつける」「根拠を述べる」「資料と内容を合わせて話す」ことに気がついたなどの回答がえられた。



(グラフ2)

③ 考察

視点1 (「話すこと・聞くこと」のスキルを見通しを立てて解決しようとしているか) では、毎時間、自分の課題とするスキルを確認して学習に取り組ませた。その結果を振り返り、自分のできたスキル、できなかったスキルを確認し、それを次時の学習で取り組むことによって学習の見通しを持たせるようにした。見通しを持たせることで、5W1Hや正しい言葉遣い、声の強弱、間の取り方などに注意して話したり聞いたりして、自分の課題を一つ一つ解決していることがワークシートからうかがえる。

【視点2】 目的や場面に応じて意欲的に話したり聞いたりすることができたか。

① 生徒の感想から

- 「絵図口頭伝達ゲーム」「アニメーションの活用」「20秒スピーチ」「プレゼンテーション」と、発表する場や目的に応じて意欲的に取り組んでいる様子が感想からうかがえる。

<生徒の感想>

「絵図口頭伝達ゲーム」

- 注意したことは相手の話をしっかり聞くように努力したことです。また、伝達するときには声を大きくしたり言葉をはっきり言ったことです。

「アニメーションの活用」

- 読み聞かせをしてもらっていいなと思った。質問の答えを本から抜き出すことができた。

「20秒スピーチ」

- これまでより聞く人を意識して周りを見ながら話すことができた。

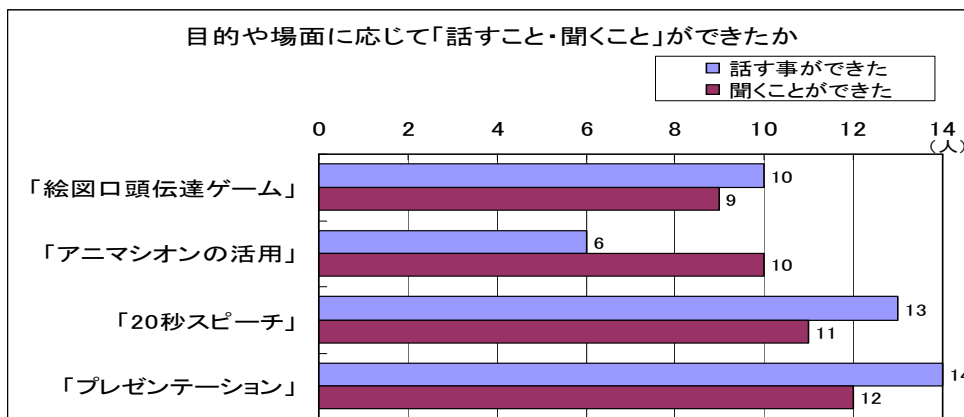
「プレゼンテーション」

- 話す内容を覚えて話すようにした。話す速度に気がつけた。

- ・今日は、自分の考えや意見が発言できてよかったです。また、疑問に思うところを確認したり質問ながら聞くことに気がつけたいです。発表が上手にできるように、もっと自分の考えや友達の意見と比べられるようにしたいです。

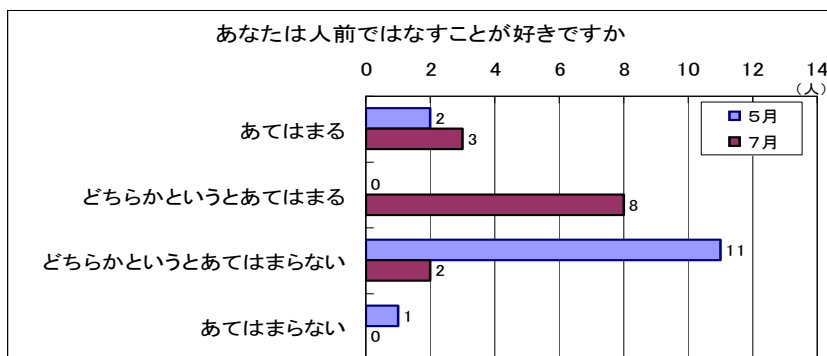
② アンケートから

- ・「絵図口頭伝達ゲーム」「アニメーションの活用」「20秒スピーチ」「プレゼンテーションの発表」など、目的や場面に応じて意欲的に話したり聞いたりすることができたと答えた生徒は下のとおりである。



(グラフ3)

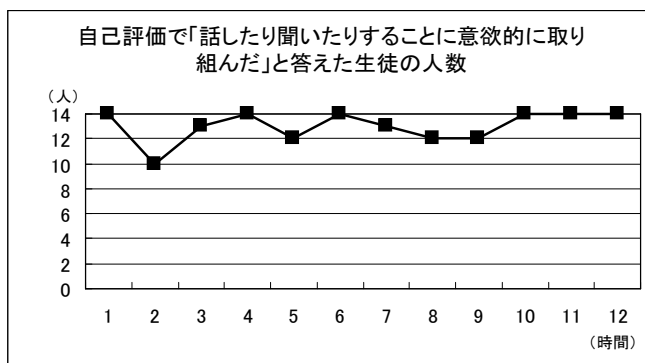
- ・「あなたは話すことが好きですか」という項目で授業前と授業後のアンケートの結果を比較してみると「あてはまる」と答えた生徒が授業前は2人だったが授業後は3人、「どちらかというにあてはまる」と答えた生徒は、授業前が0だったが授業後は8人と変わった。これは、これまで以上に目的や場面に応じて意欲的に話したり聞いたりすることで、少しずつ人前で話すことに自信を持つようになったと考えられる。



(グラフ4)

③ 考察

視点2（「目的や場面に応じて意欲的に話したり聞いたりすることに取り組むことができたか」）では、絵図口頭伝達ゲーム、20秒スピーチ、アニメーションの活用、プレゼンテーションの発表では、特に、相手意識、目的意識を持たせた。アニメーションの活用では、読み聞かせに真剣に聞いている様子が見られた。（グラフ5）



生徒の感想から見られるように、聞く人を意識したり、話す速度を考たり、内容を覚えたりしながら相手に伝えようと努力している。また、グラフ6からも分かるように、授業が進むにつれて生徒たちが意欲的に取り組んだことが分かる。このことから目的や場面に応じて意欲的に取り組んだことがうかがえる。

2 研究仮説2の検証

「聞きたくなる・話したくなる」状況を設定し、必然性のある活動を仕組むことで、自分のことばで考えたり、話したり聞いたりすることができるであろう。

(1) 検証の視点

【視点1】「聞きたくなる・話したくなる」活動であったか。

① 授業の様子から

- ・「絵図口頭伝達ゲーム」の学習で、相手に伝えようと考えている姿（写真6・7）やワークシートの感想には「集中して聞いた」「自分は伝える側だったので簡単だったけれど、説明を聞いている人はもっと難しかったと思います。楽しかったです。」の声があった。



(写真6) 「絵図口頭伝達ゲーム」



(写真7) 「絵図口頭伝達ゲーム」

- ・「20秒スピーチ」では、タイマーを使い時間の感覚を意識して話すことで20秒きっかり話をするために考えて話したり、友達はどんなことを話すのか真剣に聞いていた。

(写真8・9)

順位	名前	得点
1	石橋 拓也	18
2	山崎 雄希	18
3	藤原 悠	17
4	藤原 竜也	17
5	土屋 悠希	20
6	佐野 光希	19
7	平良 航太	21
8	高橋 龍太郎	13
9	新井 拓也	15
10	山内 悠希	12
11	藤川 空希	13
12	志摩 大空	16
13	志光 拓哉	16
14	志原 輝希	15

(写真8) 「話すスキル」「聞くスキル」表



(写真9) 「20秒スピーチの様子」

<授業後の生徒の感想>

① 「絵図口頭伝達ゲーム」

・右から「〇〇番目」とか、☆を線だけでとか、絵などを頑張って説明した。自分は伝える側だったので簡

単だったけれど、説明を聞いている側の人はもっと難しかったと思います。楽しかったです。

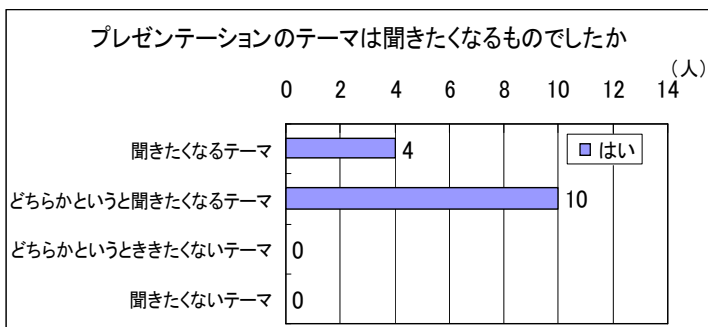
② 「20 秒スピーチ」

- ・はきはきと大きな声で意見を言えたり、話している人の顔を見てどのようなことを話しているのかまじめに聞いた。とても楽しかった。

③ 「プレゼンテーション」

- ・「体育祭に取り入れたい種目」「借りもの競走」は、自分たちがこれまでにやったことがない種目だったのでおもしろそうと思いました。
- ・「追い込み漁体験学習」は、20 年間も続けられてきたものなので聞いてみたいと思った。

・「プレゼンテーションのテーマはおもしろそう、聞いてみたいと思いましたか」という質問に、「聞いてみたいと思った」14 人中 4 人、「どちらかというときたくないテーマ」10 人の回答があった。(グラフ 7)



(グラフ 7)

- ・プレゼンテーションの発表では、各グループとも自分たちが興味関心を持ったテーマで、絵や図、パワーポイントを活用して発表していた。(写真 10・11)



(写真10)「追い込み漁体験学習について」



(写真11)「借りもの競走について」

② 考察

視点 1 (「聞きたくない・話したくない」活動であったか) では、話すこと・聞くことに興味関心を持たせる工夫として、単元の初めに学習ゲームを取り入れた。その結果「絵図口頭伝達ゲーム」では、自分の思い込みと相手との理解のずれに気がつき、正確に伝えようと意識して言葉を選んだりやさしく言い換えたりなどの工夫をしていた。「アニメーションの活用」では、読み聞かせという手法を取り入れることで、興味を持ち、話を聞くことができた。「20 秒スピーチ」では、発表メモを活用させることでスピーチに対する抵抗をなくし、聞き手は、相手の話を聞きながらメモを取ることで自分の発表と比べてどれくらいの時間で言えるのか、どんな内容なのか関心を持って聞いていた。また、発表した生徒が 20 秒ちょうどの場合、全員が拍手でたたえていた。生徒の話すことへの雰囲気作りをしながら「テーマについての話し合い」「プレゼンテーションの発表」へとつなげていくことで、楽しいと実感できるような盛り上がりを見せた。

これらのことから、「絵図口頭伝達ゲーム」や「アニメーションの活用」「20秒スピーチ」「プレゼンテーションの発表」などの活動は生徒が興味関心を持つ、「聞きたくなる・話したくなる」活動であったと考えられる。

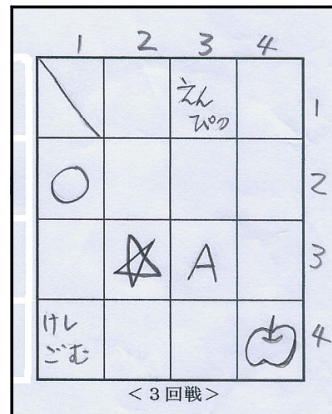
【視点2】自分のことばで考えて意欲的に表現しようとしているか。

① 授業の様子から

- ・「絵図口頭伝達ゲーム」の学習で、絵図を見て相手に分かりやすいように自分のことばで考えて伝えている活動が見られた。
- ・ワークシートから縦横 16 マスの表にあらかじめ番号を付けてから、分かりやすいように工夫して伝えている。(写真12)



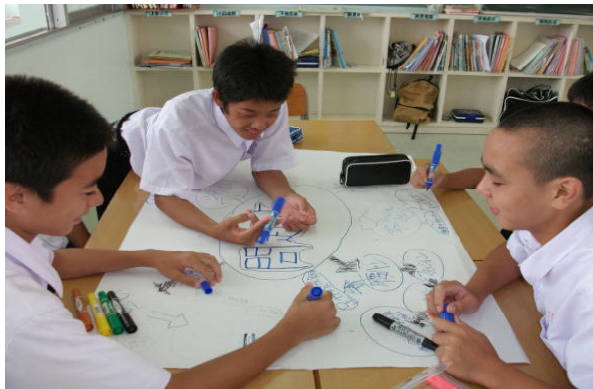
(写真12) 「口頭伝達ゲーム」



分かりやすいように生徒なりに縦と横に数字を記入してある。

<工夫された伝達ワークシートの記入例>

- ・ウェビングを取り入れた学習では、自分の考えたことばをいろいろ出し合い意欲的に取り組んでいる様子が見られた。(写真13・14)



(写真13) 「テーマについてウェビングしている様子」



(写真14) 「ウェビングの図」

<授業後の生徒の感想>

- ①「絵図口頭伝達ゲーム」
- ・相手に伝わるように大きな声で言った。「えんぴつ」だけでなく、ひらがなの「えんぴつ」と言った。☆を説明するのが難しかった。右の・・・左の・・・というふうに工夫して伝えた。□は、左から右に引くと説明して意外と簡単だった。上から下にまっすぐに引くという言葉を探して説明するのが難しかった。
- ②「プレゼンテーションのテーマに」についての話し合い
- ・今日は、自分の考えや意見が発言できたのでよかったと思います。また、発表が上手にできるようにもっと自分の考えや友達の見解と比べられるようにしたいです。
 - ・今日は、プレゼンテーションのテーマについてウェビングで考えをいろいろ出した。
 - ・グループの中でいろいろなアイデアがたくさん出されてよかったです。みんなで話し合いながらできたのがよかったです。次の授業も頑張りたいです。

③各グループの「プレゼンテーション」

- ・緊張したけれど聞く人を意識して発表した。グループの中で意見を言い合ったのでよかったと思う。
- ・質問されてもすぐに答えていたのすごかった。
- ・他のグループのを聞いていて資料と内容が合っていたと思った。

② 考察

視点2（「自分のことばで意欲的に表現しようとしているか」）では、授業の様子から分かるように伝言ワークシートの記入の工夫や、ウエビングの図などから、生徒たちは自分の言葉で意欲的に表現していたと言える。事前のアンケートで人前で話すことがあまり好きではないという生徒が11人もいたことから、自分の言葉で意欲的に表現して欲しいと考えた。そのため、書く活動を取り入れ、メモや原稿の準備、説明のための資料を用意させることで、中学2年生としては十分とは言えないが、自分自身の言葉で話すことができるようになってきた。

また、自分の考えを出し合いながら友達を考えや意見を聞くことは、コミュニケーションを活性化させ豊かな表現へとつながると考え、ウエビングなどの活動を取り入れ、学習についての話題を広げさせるようにした。その結果、自分の考えを出しやすくなり、友達を考えを聞き、さらにイメージをどんどん広げていった。このことをプレゼンテーションの発表に生かし、絵コンテを活用して発表内容をまとめることで、意欲的に自分の言葉で発表していた。これらのことから、「聞きたくなる・話したくなる活動」を仕組むことによって、生徒は自分の言葉で意欲的に表現しようとしていたと捉えられる。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 「話すこと・聞くこと」の技術（スキル）を意識して身に付けさせることで、意欲的に話したり聞いたりすることができるようになった。
- ② 「聞きたくなる・話したくなる」場の設定を意図的に設定させることで、生徒が興味関心を持ち意欲的に取り組むことができた。
- ③ 絵コンテを活用させるすることより、話す内容について自分のことばでまとめ、相手を意識した発表をすることができた。
- ④ 1時間ごとの単元計画の中で、「話すこと・聞くこと」のスキルを身に付けさせる工夫をすることで、目的や場面に応じた「話すこと・聞くこと」の授業改善ができた。

(2) 課題

- ① 話すことにおいては、自分の意見や考えを積極的に話すことができるようになってきたが、聞くことにおいては疑問点をメモすることが定着していないので継続的な取り組みが必要である。
- ② ペアやグループ活動では、話し合ったり聞き合ったり、教え合ったりすることができつつあるが、全体の場で恥ずかしがったり、緊張感で不安になり積極的に発表したがない生徒がいるので、何を言っても認められる暖かい雰囲気づくりと発表の場を数多く設けて緊張感を克服させることが必要である。
- ③ 自己評価・相互評価により、生徒が学習を振り返ることができるようになっているが、教師の評価と生徒の評価をすり合わせた評価の工夫をさらに具体的に行うことが、必要である。

4 おわりに

本研究では、国語の授業を通して、「話すこと・聞くこと」のスキルを身に付けさせ、目的や場面に応じた言語活動を取り入れた授業を構想し、実践しました。

本校の生徒の実態に人前で話すことが苦手という課題があり、その課題を少しでも解決したいという気持ちと、教師自身のこれまでの授業を振り返り、工夫改善を行いたいという気持ちで研究に取り組みました。その結果、「話すこと・聞くこと」のスキルを学び、自己の課題を解決するための見通しを立てさせることで、話すことの苦手意識を克服し、人前で話すことへの自信につながりました。

また、一人の女生徒は、1年生の1・2学期の頃は、指名されても発言せず、首を振ったりという態度でしたが、3学期の終わりの授業で、初めて自分の感想を述べることができました。2年生に進級し指名されると質問に答えるようになり、発表もできるようになりました。その背景には、この生徒がスポーツ活動などで活躍したときに、「活躍したね」「よかったよ」という教師や友達の声かけに自信を付け、話すことの苦手意識を克服していったのではないかと考えられます。国語の授業だけでなく、教育活動全体の中で自己有用感を持たせることは、とても大事なことだと学ぶことができました。

理論研究を進める中で、多くの研究論文や著書を読むことができ、授業の改善に生かすことができました。1時間ごとの計画を立てながら授業を組み立てることは楽しく、生徒もこれまでの授業より楽しんで取り組んでいる手応えを感じました。話すことに苦手意識を持つ生徒が多いので、その気持ちを払拭するきっかけをつかませたいという気持ちで、学習ゲームを取り入れたことは、楽しみながら教師の意図する方向に導けたと感じました。

自分の話したいことを相手にうまく伝えたり聞いたりするために、「話すこと・聞くこと」のスキルを繰り返し繰り返し何度も確認を行い意識させることでスキルが身に付きつつあります。このことは、これからの学習活動を進める上で生徒の思考を助け、話したり聞いたり話し合ったりするときの技能へと生かされると考えます。生徒が、これまでの言語活動を通して学び取った言語力を実生活に活用できるように、計画的に授業に取り入れていきたいと思います。教師は小学校から中学校への指導の系統・段階の見通しを持つことが大切です。そのためにも、小学校と中学校の関連が図れるように積極的な情報交換をしていきたいと思います。


私自身、半年間の研究を進める中で、多くの方々との出会いや様々な経験を通して、学校では学べない貴重なことを学ぶことができました。学校にもどり生徒たちが話すことや聞くことへ自信を持ち、豊かな言語生活が送れるように日々の授業に取り組んでいきたと思います。

<主な参考文献・引用文献>

・文部科学省	『中学校学習指導要領解説 総則編』	東洋館出版社	2008
・文部科学省	『中学校学習指導要領解説 国語編』	東洋館出版社	2008
・井上一郎	『話すこと・聞くことの基本能力の育成』中学校	明治図書	2008
・井上一郎	『話す力・聞く力の基礎・基本』	明治図書	2008
・甲斐睦朗・興水かおり	『言語力を育成する学校』	教育開発研究所	2009
・高木展朗	『言語活動の充実』	教育開発研究所	2008
・町田守弘	『月間国語教育 魅力ある言語活動の開発辞典』	東京法令出版	2010
・河野庸介	『月間国語教育 2010・5月号別冊』	東京法令出版	2010
・喜岡淳治	『プレゼンテーションの授業技術』	明治図書	2002
・高橋修三・声とことばの会	『聞く力の評価と指導』	明治図書	2008
・堀 裕嗣・研究集団ことのはの会	『教室プレゼンテーションの20の技術』	明治図書	2002
・石川晋・平山雅一	『言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集』	学事出版	2010
・有本秀文	『子どもが本を好きになる16の方法 実践アニメーション』	合同出版	2007



資料

単元の指導計画（1時）

	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導入	1 これまでの「話すこと・聞くこと」の学習を振り返り、本単元の目標と見通しを持つ。 ①学習の見通しを立てる。 ②学習の目標を知る。 ③絵図口頭伝達ゲームを行う。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの「話すこと・聞くこと」の学習を振り返えさせる 単元の目標と見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の課題をつかもうとしている。 【関心・意欲・態度】
展開 はじめに（意欲づけ）	2 「話すこと・聞くこと」のゲーム 絵図口頭伝達ゲーム <ul style="list-style-type: none"> 説明を聞き、ルールに関する質問をする。 1回目はメモしないで伝言する。 2回目はメモを取りながら聞き伝える。 ＜聞くスキル2・6・13・21＞ 3回目のゲームをする。 ＜話すスキル3・4・11＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」の意欲を高める雰囲気づくりのための、絵図口頭伝達ゲームをさせる。 学習意欲を高めるために競う場面を取り入れる。 メモを取ることを確認させる。 3回戦勝負を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の話在意欲的に聞こうとしている。 ○聞いた話を伝えようとしている。【話すこと】 ○必要に応じてメモしている。【聞くこと】 ○「伝え合う」ことができた。 【話すこと】【聞くこと】
まとめ	3 今日の授業の感想を書く。	・次時の授業について連絡する。	

単元の指導計画（2時）

	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導入	1 今日の学習の目標を知る。 ①読み聞かせを聞き発問に答える。 ②自分の意見についての根拠を本の中から見つけ出す。	<ul style="list-style-type: none"> 真剣に聞く雰囲気づくりを心がける。 答えは必ず本の中にあることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の課題をつかもうとしている。 【関心・意欲・態度】
展開	2 「話すこと・聞くこと」 アニメーションの活用 <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせを聞く。 ＜聞くスキル2・3・6・15・21＞ 教師の質問に答える。 ＜話すスキル3・4・7・10・12＞ ①どう。おもしろかった。つまらなかった。どうして？ ②心に残ったことはある。どんなことが？ ③ちびってどんな子どもだった？ ④どうしてのけものにされたの？ ⑤のけものにされたちびはどうしてた？ 	<ul style="list-style-type: none"> 教師による読み聞かせ。 読む速さや声の大きさに注意してはっきりと読む。 質問に答えられないときは深追いしないで別の生徒に聞く。 答えられない生徒には後で答えられる発問をして、全員に達成感を持たせる。 生徒の読む力に合わせてやさしい質問から始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせを聞こうとしている。 【関心・意欲・態度】 ○自分の考えを発表している。【話すこと】【聞くこと】

展 開	⑥そういうちびをクラスの子どもはどうしたの？ ⑦6年生になったときどんなことが起こったの？ ⑧磯部先生はどんな人だった？ ⑨磯部先生はちびのことをどんなに思っていたの？ ⑩磯部先生はちびにどんなことをしたの？ ⑪みんなはどうして泣いたの？ 3 ワークシートの課題に取り組む。 課題：作者は「からすたろう」の本で、どんなことを言おうとしていると思いますか？ ①なぜそう考えたのか理由を必ず書く。 ②理由の中に、必ず「からすたろう」に書いてあることを入れる。 <話すスキル3・4・7・10・11・14>		○課題に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】
	5 今日の授業の感想を書く。		○自分の考えの理由の中に本にあることを入れてある。 【読むこと】
ま と め			

単元の指導計画（3時）

	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導 入	1 今日の学習の目標を知る。 ①「話し方の話型」を確認する。 ②「話すスキル」「聞くスキル」「話し合うこと」のスキルを知る。 ・早口言葉を練習する。	・「話し方の話型」と「話すスキル」「聞くスキル」「話すことのスキル」表を準備する。 ・滑舌の練習をさせる。	○学習の課題をつかもうとしている。 【関心・意欲・態度】
展 開	2 「話し方の話型」を確認する。 ・模擬話型を練習する。 返事 ・「はい」と大きな声ではっきりと 意見 ・私は○○と思います。 ・そのわけは△△だからです。 ・一つめは□□□です。 ・二つめは□□□です。 同じ ・私は○○さんの考えと同じです。 そのわけは△△だからです 違う ・私は○○さんの考えと違います。 ・私は△△と思います。 ・その訳は□□□だからです。 付け ・○○さんの考えに付け加えます。 加え ・私は△△と思います。 質 ・○○さんに質問します。 問 ・◇◇について教えてください。	・話型を確認させ、模擬話型を練習させる。 ・シナリオを活用させる。 ・シナリオの「ねこが好きです」の理由や根拠が挙げられていることを気づかせる。 ・シナリオで、長い部分を分かりやすくまとめるためにはどうしたらいいのか、考えさせる。	○模擬話型に積極的に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】

	<p>3 「話すスキル」「聞くスキル」「話し合うことのスキル」の確認をする。</p> <p>4 20秒スピーチをする。 <話すスキル3・6・12> ・事前に話す内容の要点をメモする。 ・スピーチをする。 ・聞きながらメモを取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・20秒間で自分の言いたいことをまとめさせる。 ・20秒間でどれくらい話すことができるのか、感覚をつかませる。 ・メモを取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スキルを確認している。 ○話すスキルを意識しながら話している。 ○友達の発表をメモしながら聞いている。 【話すこと・聞くこと】
まとめ	4 今日の授業の感想を書く。	・次時の授業について連絡する。	

単元の指導計画（4時）

	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導入展開	<p>1 今日の学習の目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①20秒スピーチを行う。</p> <p>②学習の見通しを持つ。(教科書p 98)</p> <p>③プレゼンテーションの意味とスピーチの違いを知る。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標「学習の見通しをもとろう」教科書p 98を確認させ、学習の全体像を把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の課題をつかもうとしている。 【関心・意欲・態度】
	<p>2 20秒スピーチを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日20秒スピーチが全員できなかったので今日も挑戦する。 ・聞きながらメモを取る。 <p><話すスキル3・5・6・11・12> <聞くスキル2・6・13・17・21></p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたスキル、できなかったスキルを確認する。 <p>3 プレゼンテーションのねらいを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションとスピーチの違いを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」について、自分のできないスキルを確認させる。 ・20秒間でどれくらい話すことができるのか、感覚をつかませる。 ・できたスキル、できなかったスキルを確認する。 ・教科書p 98を確認させ、学習の全体像を把握させる。 ・今回の学習は自分の考えや調べたことを述べるだけではなく、聞き手に「なるほど」「自分もそう思う」という気持ちを起こさせるように説得することがねらいであることを伝える。 ・プレゼンテーションとスピーチの違いを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」について、自分のできないスキルを確認している。 ○話すスキルを意識しながら話している。【話すこと】 ○友達の発表をメモしながら聞いている。【聞くこと】 ○自己の課題について見通しを持っている。 ○プレゼンテーションのねらいを理解している。 【関心・意欲・態度】 ○プレゼンテーションとスピーチの違いが理解できた。 ○プレゼンテーションの全体的な流れをつかんでいる。
まとめ	4 今日の授業の感想を書く。	・次時の授業について連絡する。	

単元の指導計画（5時）


	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導入	1 今日の学習の目標を知る。 ①CDを聞き、プレゼンテーションの発表例を知る。 ②グループを作る。 ③プレゼンテーションの準備について知る。	・今日の目標について確認させる。	○学習の課題をつかもうとしている。 【関心・意欲・態度】 ○テーマについて考えている。
展開	2 付録CDを聞き、プレゼンテーション内容について参考にする。 ・絵コンテの活用について知る。 <聞くスキル2・6・13・17・21> ・分からない点、疑問点を質問する。 <話すスキル3・5・6・11・12> 3 グループを作る。 4 プレゼンテーションの準備について知る。 ①目的を明確にもつ。 ②聴衆（だれ）を分析する。 ③視点や考え方を決定する。 ④構成を考える。 ⑤必要な道具を準備する。 ⑥リハーサルを行う。	・プレゼンテーションの内容を聞き参考させる。 ・絵コンテについて理解させる。 ・付録CDを活用し、発表の構成や調べた過程、資料を出すタイミング、発表の仕方の工夫などを聞き取らせる。 ・CDを聞き、分からない点などの質問を出させ説明する。 ・配慮の必要な生徒を考えたグループ作りを行う。 ・生徒にどんなグループ作成をしたらよいか考え話し合わせる。 ・プレゼンテーションの準備について知らせる。	○真剣に聞いている。 ○「聞くスキル」を意識しながら聞いている。 【聞くこと】 ○プレゼンテーションの準備について理解している。 【関心・意欲・態度】
まとめ	4 今日の授業の感想を書く。	・次時の授業について連絡する。	

単元の指導計画（6時）

	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導入	1 今日の学習の目標を知る。 ①テーマについて考えを出し合う。 ②テーマを決定する。 ③テーマについて情報を収集する。	・プレゼンテーションのテーマについて話し合わせる。	○学習の課題に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】
展開	2 プレゼンテーションのテーマについて考えを出し合う。 <話すスキル3・4・10・11> ・友達の考えを聞き合い、テーマについて検討する。 <聞くスキル4・5・17・19・22>	・プレゼンテーションのテーマについて、身近な点から考えさせる。 ・プレゼンテーションテーマ例 ☆環境問題 ☆体育祭で取り組みたい種目	○プレゼンテーションのテーマについて、考えを出し合っている。 【話すこと】 ○友達の考えを聞き合っている。 【聞くこと】

開	3 グループで提案するテーマを決める。 <話すスキル3・4・10・11> 4 情報を収集する。	☆狩俣中のよさとして残したいもの ☆趣味をもつなら ☆エコ活動 ☆学級の問題点解決のために ・テーマに沿って関心を持ち提案できるものを考えさせる。 ・テーマについての情報を収集する。	○メモを取りながら聞いている。 【聞くこと】 ○考えを出し合っている。
まとめ	5 今日の授業の感想を書く。	・次時の授業について連絡する。	【話し合うこと】

単元の指導計画（7時）


	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導入	1 今日の学習の目標を知る。 ①決定したテーマを確認する。 ②テーマの分析をする。 ③テーマの内容について、ウエビングを行う。 ④絵コンテを作成する。	・今日の目標を確認させる。	○学習の課題をつかもうとしている。 【関心・意欲・態度】
展開	2 テーマの確認を行う。 3 テーマの分析を行う。 ・だれに対する、なんのためのプレゼンテーションなのか、目的を確認し企画を練る。 <話すスキル3・4・10・11・12・13> <話し合うことのスキル1・2・3・14・15> ・考えを出し合う。 ・自由に出し合う。(ウエビング) ・アイデアを書いていく。整理する。 ・大事な所は赤丸で囲ったりする。 4 役割分担を話し合う。 5 絵コンテを作成する。	・テーマを確認する。 ・プレゼンテーションの目的を確認させる。 ・模造紙を用意し発表の内容についてウエビングを行わせる。(模造紙、マジック、アンケート用紙など) ・思いついた考えをどんどん広げさせる。 ・情報を必要なものとそうでないものに整理させる。 ・アンケートの取り方をアドバイスする。 ・役割が納得してできるように話し合わせる。 ・絵コンテを作成し流れをつかむ。	○テーマを確認している。 【関心・意欲・態度】  ○考えを出し合うときスキルを意識して話したり、 【話すこと・聞くこと】 【話し合うこと】 ○話し合いの結果をワークシートに記入している。 【書くこと】
まとめ	5 今日の授業の感想を書く。	・次回の授業について連絡する。	

単元の指導計画（8～9時）

	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導 入	1 今日の学習の目標を知る。 ①プレゼンテーションのテーマについて原稿を作成する。 ②提案する内容について提案理由と根拠を考る。 ③効果的なプレゼンテーションの提示の仕方について考える。 ④資料の準備	・前時の授業の確認をする。 ・今日の目標を確認させる。	○学習の課題をつかもうとしている。 【関心・意欲・態度】
展 開	2 プレゼンテーションのテーマについての提案情報を集める。 【各グループのテーマ】 1 グループ：運動会の種目に取り入れたいもの「借りもの競走」 2 グループ：狩俣中学校の誇れるもの「追い込み漁体験学習」 3 グループ：学級や学校の問題点「腰パンをなくそう」 3 集めた情報を基に、提案理由や根拠について話し合う。 <話すスキル12・13> <聞くスキル8・16> <話し合うことのスキル1・2・3・12・13> 4 根拠がはっきりしていて、説得力のある発表を考える。 ・アンケートを集計をする。 ・アンケートをグラフ化する。 5 プレゼンテーションの提示の仕方を工夫する。 <話し合うことのスキル1・2・3・12・13> ・パワーポイントで説明するのか、絵や図を使うのか話し合う。 6 資料の準備	・テーマについて情報を集めさせる。 ・テーマの提案事項についての理由を考えさせる。 「なぜ？そう考えたのか」 ・根拠は何かを考えさせる。 「アンケートの実施結果などから考えさせる」 ・効果的に発表するにはどんな方法がよいのか、資料は何を準備したらよいのか考えさせる。	○学習の課題を把握している。【関心・意欲・態度】 ○集めた情報を基に、提案理由を考え話し合っている。【話すこと】 【聞くこと】 【話し合うこと】 ○アンケートの結果などの分析を協力してやっている。【関心・意欲・態度】 ○プレゼンテーションの仕方を工夫しようとアイデアを出し合っている。
ま と め	7 今日の授業の感想を書く。	・次回の授業について連絡する。	



単元の指導計画（10時）

	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導入	1 今日の学習の目標を知る。 ①効果的なプレゼンテーションの仕方を工夫する。 ☆全体の構成（発表の順序） ☆資料をどの場面で提示するか。 ☆説明の時間配分と役割分担	・今日の目標を確認させる。	○学習の課題をつかもうとしている。 【関心・意欲・態度】
展開	2 全体の構成を考える。 ・発表のための全体の流れをワークシートに清書し流れをつかむ。 ・絵や図のグループ、パワーポイントのグループに別れて資料を確認する。 ・各グループで原稿の読み合わせをする。 ・できあがった原稿を時間内で発表できるかどうか計る。 3 発表の役割分担の確認し合う。	・各グループが自分たちの流れをしっかりとつかむように原稿を書かせる。 ・説得する、引きつける資料の工夫を考えさせる。 ◇文字の大きさや色使い ◇写真の配置・大きさ ・全員が流れを把握するように読み合わせる。 ・読みにくい漢字や表現はないかチェックさせる。 ・時間を計らせる。 ・声の質や役割が難しい生徒にはグループ内でフォローし合うことを話す。	○ワークシートに必要な情報を記入している。 【書くこと】  ○相手の立場に立って考える。 【話し合うこと】
まとめ	4 次回の授業について連絡を聞く。	・次回の授業について連絡する。	

単元の計画（11時・・・本時）

単元の指導計画（12時）

	学習活動	教師の支援・留意事項	評価・観察
導入	1 今日の学習の目標を知る。 ①これまでの学習を振り返る。 ②事後のアンケート。	・今日の学習目標を確認させる。 ・これまでの学習を振り返る ・教師がプレゼンのテーションする。	○学習の課題をつかもうとしているか。 【関心・意欲・態度】
展開	2 各グループごとにプレゼンテーションの良かった点、改善点等を確認し合う。 ・ワークシートに記入する。 ・総合的な時間との関わりや他教科との関わり等についても知る。	・事後のアンケート実施 ・単元を振り返らせる。「話すスキル」「聞くスキル」「話し合うことのスキル」意識した授業ができたかアンケートの実施。	○学習の課題を把握している。【関心・意欲・態度】 ○意識して話したり、聞いたりしている 【話すこと】【聞くこと】
まとめ	3 次回の授業について知る。	・次回の授業について連絡する。	